

<2020年完成予定 新校舎棟>

現在「新グランドデザイン」をもとに河田町キャンパス(新宿区河田町)において、キャンパス全体の再整備を行う施設将来計画を実施しております。

第一ステップとして現在解体中の1号館等の跡地に、分散している医学部と看護学部が集約される「新校舎棟-1」を建設いたします。その後、中央校舎をはじめ北校舎等を解体し、その跡地に2025年、新病棟を建設することを計画しています。

これにより今まで以上に一人ひとりの患者さんに寄り添った医療を提供し、本学で学ぶ学生がよりよい環境で学べる場を構築することを目指します。



<東医療センター移転計画>

東医療センターは、1934年(昭和9年)より、現在の地荒川区において約85年間、大学附属病院として高度な医療を提供しながら地域医療にも貢献し、地域の皆さまとともに病院運営を行って参りました。

この間、建物の増改築や新築などを経て現在の東医療センターの形に至ります。敷地条件等については、敷地の約3分の2を東京電力などからの借地に頼り、また敷地内の1号館などの建物の老朽化が懸念となっていました。

さらに昨今求められる医療水準は、提供する医療内容の高度化だけではなく、病室や廊下などのハード面においても同様に求められるものは高度化する一方です。



これらの課題を解決するため、より良い高度な医療を提供するため代替地の検討を進めていたところ、足立区から病院誘致のお話しを受け、この度の移転計画に至り2021年度中の移転を目指しております。

学校法人東京女子医科大学の校舎等の耐震化率(平成31年4月1日 時点)

(分子)	246,154 m ²	=	91.0%
(分母)	270,505 m ²		

(分母)「実態調査」対象施設の延床面積合計

(分子)下記のa または b に該当する建物の延床面積の合計

a・・・新築年月日が1981年(昭和56年)6月1日以降の建物の延床面積の合計

b・・・新築年月日が1981年(昭和56年)5月31日以前の建物のうち、耐震診断を実施済で、耐震性能を有しているあるいは耐震補強済(2019年4月1日現在、補強工事中含む)の建物

※「実態調査」・・・日本私立学校振興・共済事業団実施 私立学校校舎等実態調査をいう。

学校法人東京女子医科大学の今後の耐震化率について

2020年2月	97.0%	新校舎棟建設、移転により耐震化率97%達成予定
2021年度中	100.0%	東医療センター移転完了に伴い耐震化率100%達成予定